

9037 ハマキョウレックス

大須賀 秀徳 (オオスカ ヒデノリ)

株式会社ハマキョウレックス社長

新中期経営計画を進め、3年後に売上高 1,000 億円を目指す

◆会社概要

当社の経営理念は、「物」に携わる者として、「人と接するときは心を込めて」、「いかなるときにも感謝の心を大切に」など「心」を基本テーマとして取り組んでいる。経営方針は、「長期的な視点に立った経営を行い、3PL 物流における質的内容の日本一を目指す」と掲げている。

3月31日現在、従業員数は連結 4,054 名、単体 673 名、株主数は 3,357 名となっている。

事業内容は、3PL(3rd party logistics)を中心とした物流センター事業、陸運を中心とした貨物自動車運送事業の二つに大きく分かれている。2012年4月2日、(株)JTB が保有する(株)JTB 物流の全株式を取得し、連結子会社とした。同日付で社名を(株)ジェイビーエスに変更し、物流センター事業の中に位置付けている。

◆2012年3月期決算概況

2012年3月期の連結業績は、営業収益 899 億 35 百万円(前期比 5.1%増)、営業利益 65 億 28 百万円(同 12.6%増)、経常利益 65 億 52 百万円(同 8.4%増)、当期純利益 34 億 23 百万円(同 20.7%増)となった。増収の主な要因は、物流センター事業の好調と、前期に取得した連結子会社による。増益の主な要因は、物流センター事業が好調に推移したこと、近物レックス(株)の改善および収益増加による。

過去7年間の業績推移を見ると、2007年3月期に経常利益が落ちているのは近物レックスの影響によるもので、それ以後は順調に利益を伸ばしている。連結では営業収益が2期連続、経常利益・当期純利益が5期連続の増益で、いずれも過去最高であった。ハマキョウレックス単体もすべての項目で過去最高となっている。

セグメント別では、物流センター事業の営業収益は、前期オープンセンターが15億75百万円の増収、当期オープンセンターが6億97百万円の増収、既存センターが3億50百万円の増収となり、トータル26億22百万円の増収となった。

物流センター事業の受託および稼働状況は、当期は11社から新規受託をしている。前期受託し未稼働であった5社を合わせ16社のうち14社が稼働している。このうち2社の稼働については近物レックスと共同の物流センター案件となっている。3月末時点での物流センター総数は前期末より7センター増加し70センターとなった。

物流センター事業の取扱品目別売上高構成比は、食品33%、アパレル33%、医療17%、雑貨14%で、前期と比べて大きな変化はない。

貨物自動車運送事業の営業収益は、前期比17億円増加し474億円となった。増収の主な要因は、前期取得した連結子会社の増加による。また近物レックスにおいても物流の回復、新規獲得により収益が増加している。

◆2013年3月期計画および中期経営計画

2013年3月期の連結業績予想は、営業収益910億円、経常利益69億円としている。設備計画については連結で28億円、ハマキョウレックス単体で12億円を想定している。設備計画の内容は、マテハン、車両等の設備投資は決定しているが、新規物流センターについては決まり次第反映させていく。

2013年3月期は1株当たり40円の配当を計画している。

5月10日、2013年3月期を初年度とする3年間の新中期経営計画を公表した。最終年度の2015年3月期には売上高1,000億円、経常利益80億円を目標としている。

この目標を達成するための取り組み内容は次の5点である。①今までどおり3PLを軸とした拡大戦略をとる。②三つのキーワード「日々収支」、「全員参加」、「コミュニケーション」を中心とした取り組みを継続し、生産性向上、業務効率化を図る。③グループ内のインフラ、ノウハウを有効活用し、事業展開を図っていく。④物流センター事業の年間新規受託目標15社以上を達成する。⑤国内の顧客満足度向上のため、ニーズに応じて海外展開を図る。これらの取り組みを確実に実行し、中期経営計画の目標を達成する。

2013年3月期の業績予想は保守的な数字にしている。昨年の大震災の影響により、新規の物流受託に半年のずれが生じており、今期は下期以降に新規立ち上げが多く出てくる見込みである。今期は体制強化に主眼を置くと同時に、新規受託件数のアップを図り、再来期以降の増収増益のための期と位置付けている。ここにきて物流センターの引き合い件数が70件以上と増えている状況であるため、来期以降の立上げのために今期から取り組んでいこうと考えている。

◆2012年3月期決算実績の詳細

(株)ハマキョウレックス 常務取締役管理本部長 山崎 裕康

四半期別の業績推移を見ると、第4四半期に営業利益が前年同期比45.6%と急激にアップしている。これは、前年3月に稼働した新規物流センターの立ち上げコストが発生したものの、物流センター事業が順調に推移したためである。経常利益が第2四半期に前年同期割れとなったのは、各種助成金約1億90百万円が前年で終了したためである。

セグメント別では、物流センター事業は好調に推移し、営業利益が第4四半期で前年同期比38.1%増となった。一方、貨物自動車運送事業は、昨年は震災後の波動の影響により一時的に物量が落ち込み、営業収益が第3四半期に前年同期比2.6%減となった。

地域別連結売上高で東海地区の売上が増加しているのは、前期と当期に自社物流センターが中部エリアで4つ稼働したためである。

貸借対照表については、総資産は851億64百万円(前期末比1億18百万円減)となった。主な要因は、受取手形および売掛金の増加等により流動資産が13億77百万円増加し、有形固定資産の減少等により固定資産が14億96百万円減少したためである。負債は567億82百万円(同36億74百万円減)となった。主な要因は、短期借入金等により流動負債が23億56百万円、長期借入金等により固定負債が13億18百万円減少したことによる。純資産は283億82百万円(同35億55百万円増)となった。この結果、自己資本比率は前期末の25.0%から28.7%へと上昇した。

有利子負債は343億67百万円(前期末比44億58百万円減)となり、その要因は各社の借入金返済が順調に進んだことによる。

キャッシュフローについては、営業活動キャッシュフローは主に利益の増加により63億63百万円の資金獲得となった。投資活動キャッシュフローは、大型の設備投資をする機会が得られず投資額が減少した。その結果、財務活動キャッシュフローにおいて借入金返済が進み、58億円の資金使用となった。

連結の設備投資額は前期比約 33 億円減少し約 21 億円となった。前期は自社物流センターの建設が 2 件あったが、当期は大型の設備投資がなかったため減少している。

◆近物レックスの現況と今後の戦略

(株)近物レックス社長 堀内 悟

2012年3月期の業績は、営業収益357億87百万円(前期比1.1%増)、営業利益3億52百万円(同39.0%増)、経常利益1億26百万円(同43.0%減)となった。

営業収益増加の主な要因は、主力の積合収入が各地域とも順調に推移したこと、共同提案したセンター運営が順調に推移していること、この2点が挙げられる。営業利益98百万円増加の要因は、固定費の圧縮と週単位での経費管理が定着してきたことによる。経常利益が前年度を下回った要因は、エコカー助成金と雇用調整助成金を前年度に2億50百万円計上したためである。

近物レックスの2011年度成果は次のとおりである。

- (1)震災エリアの復興については、東北方面の物量が前期比約10%増加した。当期、施設の新築も含め約2億70百万円の設備投資を行った。
- (2)グループ間取引については通期目標額1億円を毎月達成している。共同提案での3PL受託、自社倉庫の活用も順調に推移している。
- (3)営業その他については、貸切大口顧客の他社移行があった。
- (4)費用管理強化については、外注費用の管理を徹底的に行った。ただし、幹線にかかわる管理だけが機能せず、前期を上回ってしまった。
- (5)事故「0」への取り組みについても順調に推移しており、金額・件数ともに前期の半分となった。

2012年度の重要な取り組みは次の3点である。

- (1)収入の確保については、キーワードは「既存顧客のフォロー」であり、既存顧客への提案を含め営業を強化する。
- (2)第1四半期に新運行システムを構築する。週末から週明けの稼働率・積載率の向上と、それに付随する外注費の圧縮を行う。空車距離短縮も改正の大きな目的である。他社との相互乗り入れも検討課題としている。引き続き日計管理を行い、経費コントロールをしていく。
- (3)燃料費抑制については、燃料費が大きく高騰している。前期は幹線車両(大型車)へのデジタルタコグラフ装着効果が出た。それをさらにアップするため、エコ運転制度の導入を評価項目に組み込むこととした。さらに燃料の調達方法、調達先についても検討課題としている。小型車へのデジタルタコグラフ導入が、今期の検討課題となっている。

2013年3月期の業績予想は、営業収益361億92百万円、営業利益6億7百万円、経常利益3億17百万円を見込んでいる。

◆質疑応答◆

2014年3月期の設備投資額は76億円で、過去最高額だが、具体的な計画を教えてください。

現在提案中の案件のうち、自社物流センターの建設が必要となりそうな新規案件が関東であるため、時期は未確定ではあるが、来期の設備計画として入れている。

海外戦略についても具体的な計画を教えてください。

現時点で海外拠点は上海とバングラデシュ、香港の 3 拠点であり、上海とバングラデシュでは日本向けの物流関係を主にやっている。香港は 4 月に拠点を立ち上げたが、海外物流を視野に入れて拠点整備をしているところである。

御社と同業企業から 3PL が伸び悩んでいるという発言をよく聞かすが、業界全体の動向はどうか。

当社は営業強化を図っており、人材育成に力を入れて来期以降に臨んでいるので、当社としては 3PL の案件が減っているとは感じていない。

貨物自動車運送事業の営業収益の計画が前期比 0.8%減少しているが、この理由を教えてください。

グループ会社の一部に苦戦している会社がある。前期の下期以降、物量減少が発生しており、この部分を加味した数字になっている。

近物レックスの 2015 年 3 月期の営業利益、経常利益の目標値を教えてください。

当面の目標として営業利益率 1.8%、経常利益率を 1%にもっていこうという計画にしている。

4 月から入る(株)ジェイビーエスは今期の売上、利益でどのくらい寄与するのか。

同社の今期の売上は 12 億円程度、営業利益は 50 百万円を計画している。

引き合いが半年前は 50 件ぐらいだったのが 70 件超とかなり増えているが、1 件当たりの受注額は大型化しているのか。

新規受注の中身は大小さまざまで、大きな案件も小さな案件も増えているので、全体的に増えている状況である。

(平成 24 年 5 月 16 日・東京)